VOPバイブルスクール

8

真理への道講座

放蕩息子
ほう とう

はじめに

「百貨店王と呼ばれたジョン・ワナメーカーはあるとき、伝道者ビリー・サンデーを案内して、自分の所有する大きな百貨店を見せ、こう言いました。『この店の中のものならば、何でもお好みにしたがって差し上げます』。しかしビリー・サンデーの求めたものは、『この世界最大のデパートの所有者の友情』でした。

今、多くの人々がモノを求めて、この世界にモノよりも尊いものがあることを忘れています。この世界を所有し、人を愛しておられる神の友情は人間の求め得る最高のものです。

あなたの選択は、あなたの生涯を決定するばかりでなく、家庭の幸福、社会の将来、国家の運命を決定するものとなります。今日、私たちの生活をきよめ、社会を救うのはイエス・キリストの福音より他はありません。この救いの福音こそ、今日の全世界にあるすべての問題に対して完全な解決を与えるものです。たとえ困難があるようにみえても、神に従う道は喜びに満ちたものであり、その彼方には永遠の希望と神の栄光が輝いています」（山形俊夫）。

この通信講座は、キリスト教の背景のない人々のために山形俊夫博士によって著されたキリスト教入門書『真理への道』（福音社）を通信講座用に編集したものです。１９５２年（昭和27年）に発行された名著が65年ぶりに通信講座となってよみがえりました。この通信講座を学ぶ皆様が、イエス・キリストにある恵みと救いの福音に触れることができるようにお祈りいたします。

この講座を勉強する方へ

・もしお持ちであれば、聖書を手元に置いて学びをはじめてください。
・最初に本編をお読みください。
・設問用紙は真ん中のページにあります。ホッチキスを外すか、コピーしてください。
・設問用紙に答えを記入し、郵送・FAX などでご返送ください。
・添削した設問用紙と次のテキストをお送りします。
・その他、具体的なことは、担当者にお問い合わせください。

放蕩息子

イエスはすぐれた教師でした。深い霊的な真理を説明するのに、だれでもよく知っている事柄を用いられました。野のゆりや空の鳥を示しながら、神の人間に対する周到なご配慮を説明され、種まきや刈り入れなどのことを例にして、私たちの魂の問題や世の終わりのことを教えられました。イエスのお話は、うるおい豊かなものであり、またいつでも心に残る印象を聞く人々に与えました。

聖書の中には、そのようなたとえ話がいくつも記されています。放蕩息子のたとえ話もその中の一つですが、神の愛を語ったよく知られているたとえ話です。かつてルーズベルト大統領は、この物語ほど自分の心を打ったものはなかったと言いました。

「ある人に、ふたりのむすこがあった。ところが、弟が父親に言った、『父よ、あなたの財産のうちでわたしがいただく分をください』。そこで、父はその身代をふたりに分けてやった。それから幾日もたたないうちに、弟は自分のものを全部とりまとめて遠い所へ行き、そこで放蕩に身を持ちくずして財産を使い果した。何もかも浪費してしまったのち、その地方にひどいききんがあったので、彼は食べることにも窮しはじめた。そこで、その地方のある住民のところに行って身を寄せたところが、その人は彼を畑にやって豚を飼わせた。彼は、豚の食べるいなご豆で腹を満たしたいと思うほどであったが、何もくれる人はなかった。そこで彼は本心に立ちかえって言った、『父のところには食物のあり余っている雇人が大ぜいいるのに、わたしはここで飢えて死のう

としている。立って、父のところへ帰って、こう言おう、父よ、わたしは天に対しても、あなたにむかっても、罪を犯しました。もう、あなたのむすこと呼ばれる資格はありません。どうぞ、雇人のひとり同様にしてください』。そこで立って、父のところへ出かけた。まだ遠く離れていたのに、父は彼をみとめ、哀れに思って走り寄り、その首をだいて接吻した。むすこは父に言った、『父よ、わたしは天に対しても、あなたにむかっても、罪を犯しました。もうあなたのむすこと呼ばれる資格はありません』。しかし父は僕(しもべ)たちに言いつけた、『さあ、早く、最上の着物を出してきてこの子に着せ、指輪を手にはめ、はきものを足にはかせなさい。また、肥えた子牛を引いてきてほふりなさい。食べて楽しもうではないか。このむすこが死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから』。それから祝宴がはじまった。ところが、兄は畑にいたが、帰ってきて家に近づくと、音楽や踊りの音が聞(きこ)えたので、ひとりの僕を呼んで、『いったい、これは何事なのか』とたずねた。僕は答えた、『あなたのご兄弟がお帰りになりました。無事に迎えたというので、父上が肥えた子牛をほふらせなさったのです』。兄はおこって家にはいろうとしなかったので、父が出てきてなだめると、兄は父にむかって言った、『わたしは何か年もあなたに仕えて、一度でもあなたの言いつけにそむいたことはなかったのに、友だちと楽しむために子やぎ一匹も下さったことはありません。それだのに、遊女どもと一緒になって、あなたの身代を食いつぶしたこのあなたの子が帰ってくると、そのために肥えた子牛をほふりなさいました』。すると父は言った、『子よ、あなたはいつもわたしと一緒にいるし、またわたしのものは全部あなたのものだ。しかし、このあなたの弟は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから、喜び祝うのはあたりまえである』」（ルカによる福音書15章11～32節）。

このたとえ話は、ある大きな邸宅における、父と子の会話に始まっています。この弟は平和な秩序だった父の家の生活に飽きて、もっと違った世界を求め始めていたのです。もっと自由で自分の好きなことができる世界を考えました。そして彼はその計画を実行するために、財産の分け前を要求したのです。

自由、これは私たちの心をひく言葉です。多くの人が自由を求めます。イエスは「もしわたしの言葉のうちにとどまっておるなら、あなたがたは、ほんとうにわたしの弟子なのである。また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」（ヨハネによる福音書8章31、32節）と言われました。本当の自由は、神の言葉の中にあるときにのみ与えられます。真理を知り、真理の道に歩むときにのみ、完全な自由を得ることができるのです。自由はそのように構成されているのです。

この弟が求めたのは、間違った自由でした。それは自己を中心としたものでした。人生における一番大切なことは、神と人に対する義務に生きることです。

父は寛容にも息子の要求を許しました。

このたとえ話の父は神をあらわしています。弟は人間の姿です。かつて人間は神と共に住んでいました。神は人間の父であったのです。しかし、人間は神のみ旨（むね）のうちに生活することに満足しませんでした。そして、父なる神は人間に選択の自由を与えておられました。

さて弟は、数日のうちに自分に与えられた財産を集めて、遠い国へ旅立ちました。遠い国――そこは、いわゆる自由の世界であり、この世のはなやかな生活の場で、そのうちには、あらゆる虚偽と罪悪がありました。それは神のもとから遠く離れた罪の世界だったのです。

弟はそこで放蕩にその財産を散らしてしまいました。そして自分の思う通りの生活をして、全く自由にふるまっても、本当に幸福ではありませんでした。

神を離れた生活にも楽しみがあることは事実ですが、罪の楽しみは一時的なものであり、その後味も悪いのです。悪魔は人の魂を釣るために、この世の楽しみを餌（えさ）にします。人がそれに耽溺（たんでき）しているうちに、悪魔の針は深く魂に食い込んできます。そして気がついたときには、みじめにも破滅した自己を見いだす結果となるのです。自分の意志のままに歩もうとして、かえって罪にひきずられている自己を見いだすのです。

弟が財産をことごとく費やしたときに、その国に大きな飢饉（ききん）が起こりました。放蕩息子は自己の乏しさを感じ始めました。彼はやむを得ず、ある人のもとに行って豚

を飼うことになりました。豚飼いは、ユダヤ人が一番卑しんでいた職業です。はなやかな夢を見て家を出た青年のさっそうたる姿は、もうどこにもありませんでした。

自己を中心とした生活は、やがて自己を保存することすらできなくなります。その生活は神に対しても、人に対しても全くの浪費となるのです。

「よくよくあなたがたに言っておく。一粒の麦が地に落ちて死なければ、それはただ一粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる」（ヨハネによる福音書12章24節）とイエスは言われました。みずからを捨てるところに、またみずからも生きる道があるのです。自己犠牲の道は、自己保存の道です。私たちは破滅を経験する前にこの真理を悟りたいものです。

弟は、豚飼いをして、困窮から逃れることはできませんでした。ここまできて、彼の心にようやく反省の思いがわいてきました。自分の過去と現在と将来についてまじめに考え始めたのです。彼は罪の生活の本当の姿に気がつきました。父の前にすべてを悔い改める決心をし、本当に謙遜な心になって立ち上がり、家路をたどり始めたのです。

私たちは放蕩まではしていないでしょうが、私たちの肉体も精神もむしばみつくす罪の生活の真相に早く気がつかなければなりません。神を離れて歩んでいるかぎり、どんなに一生懸命やってみても、困窮におちいるばかりです。たとえ物質はあっても心の平安はないのです。神は人間が罪を認めて、神のもとに帰ることを待っておられます。

ここで物語はクライマックスに達します。

自己の過ちを告白して「雇人のひとり同様にしてください」と言う決心をして帰った息子は、まだ父の愛を失っていませんでした。

「昔、意気揚々となんの深い考えもなく父の家を出た青年は、それが父の心にどんな痛みと寂しさを残したかを夢想だにしなかった。非道な仲間たちと踊ったり、騒いだりしていた時に、それが自分の家庭にどんな暗い影を投げたかは考えてもみなかった。ところが、今、疲労のため痛む足どりで、彼が家路をたどる時にも、彼の帰りを待ちわびている人があるのを彼は知らないのである。放蕩息子が、『まだ遠く離れていたのに』、父は彼の姿を認めた。愛は、すばやく発見する。長年の罪の生活のため

【設問用紙の送り方】

・設問用紙に解答、名前、性別、住所など必要事項を明記の上、設問用紙のホッチキスを外すか、コピーやスキャンなどをしてご返送ください。

※郵便で送る場合

・市販の封筒、またはテキストに同封して送られてくる返信封筒で、次の宛先までお送りください。

〒241-8501　横浜市旭区上川井町 846
VOP バイブルスクール　行

１課ずつではなく、一緒に送られてきた複数課の設問用紙をまとめてお送りいただいて結構です。

※ FAX で送る場合

・郵送同様、必要事項をご記入の上、解答面を間違わないように次の番号まで送信してください。

FAX 番号：045-921-2319

・設問用紙に、名前などの必要事項を明記いただければ、別紙（FAX 送付状）をつけていただく必要はありません。

※ E メールで送る場合

・解答面をスキャンするなどして、PDF または JPEG データでお送りください。内容が読み取れるか送信前にご確認ください。件名に「真理への道答案」と必ず明記してください。

アドレス：info@vopjapan.net

送信後、担当者から受信メールをお送りします。休日を除き 72 時間以内にメールが来ない場合は、受信できていない可能性がありますので、ご確認ください。

★どの方法で解答を返送していただいても、添削した設問用紙と次のテキストは郵送いたします。

ご意見、ご感想をお聞かせください。

フリガナ お名前	登録番号
ご住所　〒 電話番号　　（　　）	

第8課 VOPバイブルスクール 真理への道講座・設問用紙

質問1 放蕩息子のたとえ話は何を語っていますか。

- □ 天国
- □ 神の愛
- □ 人間の身勝手さ

質問2 本当の自由はどのようにしたら得ることができますか。

- □ たくさんの財産を持つ
- □ 自分で好きなように生きる
- □ 真理を知り、真理の道を歩む

質問3 なぜ、弟は父のところに帰ろうと決心したのでしょうか。

- □ もう一度豊かな生活をしたい
- □ すべてのものを失ってしまって悔しい
- □ 父の前にすべてを悔い改めたい

質問4 父親は、帰ってきた息子をどのように迎えましたか。

- □ 息子を叱り、汚い衣服と体を洗い、きれいにしてから家に入るように命じた
- □ 走り寄って息子を抱き、接吻して、きれいな服に着替えさせ、宴会を開いた
- □ 二度とこのようなことはしないと決心することを条件に家に迎え入れた

8

VOPバイブルスクール

設問用紙 - *d*

に変わり果てた姿であっても、父の目から子を隠すことはできなかった。父は『哀れに思って走り寄り、その首を』しっかりと温かく抱きしめたのである」（エレン・ホワイト、『明日への希望』1263ページ）。

そむいた人類に対して、またあなたに対し、私に対して、神はこのようにしてくださるのです。「父がその子供をあわれむように、主はおのれを恐れる者をあわれまれる」（詩篇103篇13節）。

この物語で、父はその子どもの非行に対して一言も責めていません。あたたかな愛をもってその胸に抱いています。神は、「わたしは彼らの不義をゆるし、もはやその罪を思わない」（エレミヤ書31章34節）と言われます。どんな罪を犯していても、悔い改めて神に帰るとき、豊かにゆるしを与えてくださるのです。

罪を犯して神のもとを離れた人間の姿は、息子として表されています。息子が失われたのです。ほかのものならば新しく求めることもできたでしょう。しかし父にとっては、失われた息子の代わりになるものはないのです。私たちに対する神の愛は、そのようなものです。失われた子どものように、私たち一人ひとりを求めておられます。

「彼（神）はあなたのために喜び楽しみ、その愛によってあなたを新にし、祭の日のようにあなたのために喜び呼ばわられる」（ゼパニヤ書3章17節、括弧筆者付加）。

この物語はこれで終わっていません。父が子どもを迎えて喜びの中に楽しみ始めたとき、畑から兄が帰ってきて、いぶかって何事が起こったかとたずねました。僕の一人が弟の帰宅と父の喜びを告げたとき、「兄はおこって家にはいろうとしなかったので」とあります。兄の心には父のような愛がありませんでした。また自己の行為に対しての誇りがあったのです。

「（愛は）怒らず」（コリント人への第一の手紙13章5節、新改訳）とパウロは書きました。怒り、不愉快な気持ちをあらわすことは、一般には、さほど罪とは考えられていませんが、いらいらした気分、怒りは魂の奥底から出てきます。これは品性の大きな欠陥を示し、周囲に不幸な暗いかげを投げるものです。

兄の怒りは、この喜びの日に、家庭の中に暗いかげを落としました。愛の足りなさ、自分を義とす

る精神が、いかに多くの幸福を人々から奪っているでしょうか。

父がやさしく、「子よ、あなたはいつもわたしと一緒にいるし、またわたしのものは全部あなたのものだ」と言っているのは、自分を義とし、他人を責める人に対する神のやさしいみ声です。

肉体的な罪も精神的な罪も、神は御子（みこ）イエスの十字架によって全くゆるしてくださるのです。

瞑想のことば

道に迷った羊、なくなった銀貨、そしてこの放蕩息子のたとえは、神からさ迷い出た者に対する神の憐れみ深い愛を明らかに示している。彼らは、神にそむいたけれども、神は彼らをその悲惨な状態のままにしておかれない。敵の巧みな誘惑にさらされているすべての者に対して、神は、情けと憐れみに満ちておられる。

放蕩息子のたとえでは、かつては天の父の愛を知っていたにもかかわらず、敵の誘惑のとりこになっている者に対する神のお取り扱いが示されている。

「ある人に、ふたりのむすこがあった。ところが、弟が父親に言った、『父よ、あなたの財産のうちでわたしがいただく分をください』。そこで父はその身代をふたりに分けてやった。それから幾日もたたないうちに、弟は自分のものを全部とりまとめて遠い所へ行」った。

神の愛は、今でも神から離れて生きる人の上に注がれ、神はなんとかしてその人を、父の家へ引き返そうと働きかけてくださる。放蕩息子は悲惨な状態におちいって初めて、「本心に立ちかえっ」た。今まで彼を捕らえていたサタンの欺まんの力から解放された。彼は、この苦しみが自分自身の愚かさの結果であることをさとり、「父のところには食物のあり余っている雇人が大ぜいいるのに、わたしはここで飢えて死のうとしている。立って、父のところへ帰」ろうと言った。放蕩息子は、実にあわれむべき状態であったけれども、父の愛を確信して望みをいだくことができた。放蕩息子を家へ引きつけたのは、この愛であった。そのように、神の愛の確証が、罪人を神に帰らせることになるのである。

「神の慈愛があなたを悔改めに導く」のである（ローマ人への手紙２章４節）。神の愛の憐れみとなさけという黄金の鎖が、危険におちいったすべての魂にのべられている。「わたしは限りなき愛をもってあなたを愛している。それゆえ、わたしは絶えずあなたに真実をつくしてきた」と主は言われるのである（エレミヤ書 31 章３節）。

続きは、『明日への希望』（エレン・ホワイト著、福音社）に収録されている『キリストの実物教訓』の16章をお読みください。

瞑想のことば

放蕩息子は、かつての落ちつかない若者だった時には、父親を厳格で恐ろしい人のように考えていた。ところが今は、その考えがなんと変わったことであろう。そのように、サタンに欺かれている者は、神を厳格苛酷な方のように思う。神は、罪人を厳しく見張っていて、責める方であって、真に正当な理由がない限り、助けを与えようともしなければ、迎えいれてくださらないものと、彼らは考える。また、彼らは、神の律法を、人間の幸福を制限するもの、重苦しいくびきと見なして、それから逃れようと望む。しかしながら、キリストの愛によって、目が開かれた者は、神が憐れみ深いお方であることを悟る。神は横暴で残酷な方ではなくて、悔いて帰る子を、だきかかえようとして待っている父のような方であると知ることができる。罪人は、詩篇記者とともに、「父がその子供をあわれむように、主はおのれを恐れる者をあわれまれる」と言うようになる（詩篇 103 篇 13 節）。

立って、あなたの天の父に帰りなさい。神は、遠くからあなたを迎えてくださる。あなたが悔い改めて、1 歩神に向かって進むならば、神は、永遠の愛の腕にあなたをいだこうと走りよられるのである。神の耳は、悔い改めた魂の叫びを聞くために開かれている。人の心が、まず神を求め出したその瞬間を、神は、ご存じである。どのようにためらいがちの祈りであっても、どのようなひそかな涙であっても、どのようなか弱い切なる心の願いであっても、必ず神の霊がそれを迎えに出られるのである。キリストから与えられる恵みは、祈りが口から出て、心の願いが述べられるその以前にすでに、人の心に働いている恵みに合流する。

続きは、『明日への希望』（エレン・ホワイト著、福音社）に収録されている『キリストの実物教訓』の16章をお読みください。

聖書の視点で歴史を見直すとき、
今をどう生きるかを学び、
明日への希望を見いだします。

明日への希望
エレン・G・ホワイト著
A5判／1,984頁
収録されている本――人類のあけぼの(上・下)、国と指導者(上・下)、各時代の希望(上・中・下)、患難から栄光へ(上・下)、各時代の大争闘(上・下)、キリストの実物教訓、キリストへの道、祝福の山。

キリストへの道(改訂第3版文庫判)
エレン・G・ホワイト著
文庫判／184頁

手軽に読めます！

各時代の希望
エレン・G・ホワイト著
3巻セット
文庫判／上巻496頁、中巻512頁、下巻504頁

聖書のことばは、
わたしたちを励まし、助け、希望へと導く宝です

みことば手帳
手帳サイズ(横91mm×縦156mm)／192頁

みことば手帳2 全員参加伝道編
手帳サイズ(横91mm×縦156mm)／176頁

聖書を直接学ぼう！

よくわかるヨハネの黙示録
金棋坤著　柳鍾鉉訳
A5判／200頁

発行：福音社
福音社のオンラインショップ　https://www.fukuinsha.com

表紙写真MaCC／PIXTA

VOPバイブルスクール　真理への道講座
第 8 課　放蕩息子

2017 年 10 月 15 日　初版第 1 刷発行　　2022 年 7 月 15 日　初版第 3 刷発行

〒 241 - 8501　横浜市旭区上川井町 846　045 - 921 - 1416 (電話)　045 - 921 - 2319 (Fax)

本書を無断で複写、複製、転載することを禁じます。

本書は、『真理への道』(山形俊夫著、福音社、1962 年発行改訂版) を底本として、聖書通信講座用に編纂しました。
本文中の聖句で特記していない箇所は日本聖書協会発行『口語訳聖書』を使用しています。　1000プ

真理への道講座

第 1 課 人生の謎
第 2 課 目に見えない世界
第 3 課 解決の鍵、聖書
第 4 課 世界と生命の起源
第 5 課 神
第 6 課 人生を暗くするもの
第 7 課 イエスの生涯
第 8 課 放蕩息子
第 9 課 だれでも新しく生まれなければ
第 10 課 足りない一つのもの
第 11 課 人生の苦難
第 12 課 主にゆだねた生活
第 13 課 聖書の歴史観
第 14 課 世界の将来
第 15 課 終末は近いか
第 16 課 安息日
第 17 課 死の彼方
第 18 課 使命を持つ教会

VOPバイブルスクール